

有難い

未知のロータリアン

東京築地 森崎 実

ニュージーランドの南島、この中部都市のクライストチャーチは、南極探検のスコット大佐にゆかりの地だが、中世風とでもいうか、実におっとりとした街である。

私は昨夏——いやその地では昨冬、機会をえてこの地を訪れたが、このことが後に、はしなくも、この未知のロータリアンを煩わす仕末になった。

それというのは、こうである——。

私どもはマウント・クックを訪ねてのち、

ここに一泊した。日曜日のこととて店は開かれていず、タクシーにのって、街の様子をみるほかなかった。

オークランドでもそうだったが、ここでもドライバーに恵まれて、実直そうで気さく、しかも驚ろいたことに、東京に友人もいるという。どうして——東京オリンピックに自転車競技の選手として出場したとのこと。これをきっかけに距離感も、異境感も急に融けあう雰囲気になった。

そして、その流れに乗ったというか、旅の気楽さからというか、幾何かの前渡しをし、頃合いの土地産のものでも、と依頼して別れた。「光栄あるオリンピックの選手」は、その名と住いとをサインして、渡してくれた。

かくするうち、秋が過ぎ、冬に入ったが、船便は届かない。年が明け問いあわせしても梨のつぶて。もともと一種の賭け的気やすめもあつた私だが、しかし、あのドライバーがよもやと疑う気にはなれず、便を待った。

それかとて、しかしと拭いきれずにいるうち、ふとあの小さな街だ、ロータリーならばと気づき、そのクラブ幹事、J・ロバートソン氏にいきさつを述べ、スミス君（ドライバー）に事情を尋ねてもらえまいかと便りした。

折返し返信があつた。スミス（私に渡した住所は間違ひなかつた）は、こんな品を直ぐ送つた、お国の海外郵便物について確かめられたら、という内容のものでした。調べてみたがたくさんの荷のこと、送り状でもあればといったことで結局わからない。

私は、もうこのことはよい、一つの対外授業料と思えばとして追わないことにし、ロバートソン氏の好意には謝意を述べ、放棄してもらふことにした。

ところが、ロバートソン氏はなおも心にかけてくれたらしい。幾何もなく重ねて便をよせてくれ、スミスはもう一度送るといつている、しかし、もしスミスという通りならなかつたら、遠慮なく知らせた欲しいという、恐縮するような内容のものでした。

話はこれだけのことで、しかもまだ結末をみていないが、私は実のところ、とんだ迷惑をかけてしまったと悔いる気が強く今後どうなるにせよ、それよりも凶らずもじかに知つたロバートソン氏の好意、それを通じてのロータリアンを結ぶ輪の強さ、こうしたことの有難さを深く心に刻んでいる。だからこそ、わが軽卒さがもたらしたこの仕末を敢えて筆にしたのである。（ラジオ及テレビジョン視聴率調査）